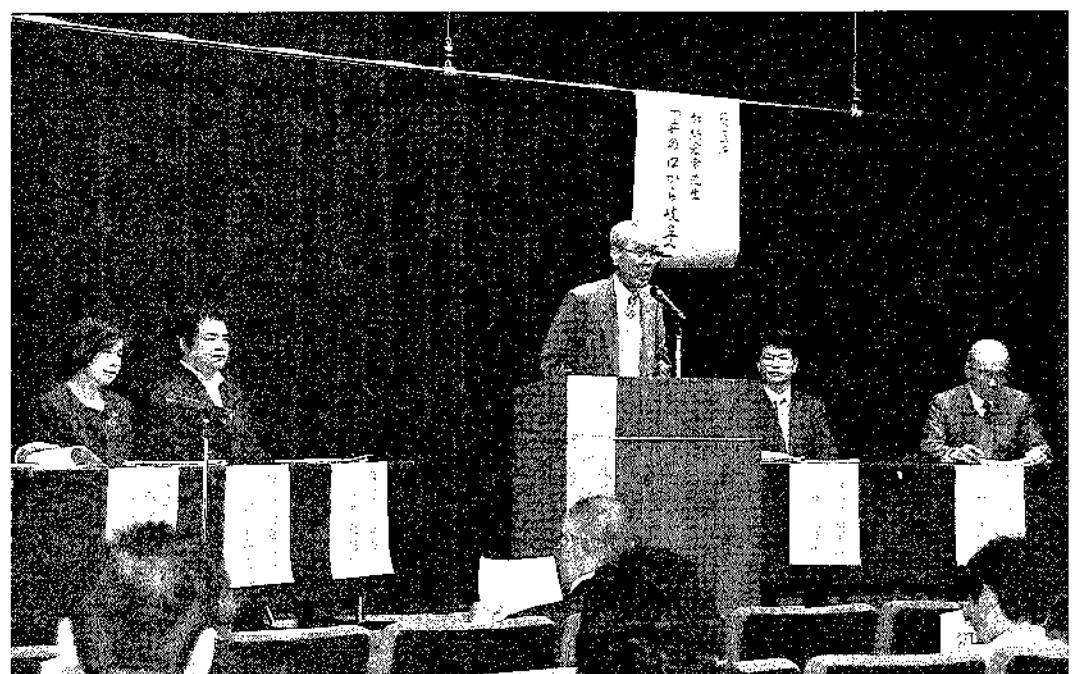


井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日
発行・平成20年5月10日・第1号通信
責任者・堀 達夫(井の口まちづくり会会長)
〒500-8003 岐阜市大宮1-17 ☎058-263-9540
事務局・河崎良史
E-mail・malo@he.mirai.ne.jp

「井の口まちづくり会」が3月23日(日)に発足



3月23日(日)、歴史博物館講堂において開催した「井の口まちづくり会設立総会」で挨拶する堀会長

(岐阜市まちづくり団体の認定を申請しました)

井の口まちづくり会では、設立後の早い段階で岐阜市に「都市景観形成市民団体」の認定申請をいたしました。魅力あるまちづくりを目指して私たちが活動するための助成金や、良好な景観形成のためのルールづくりなどへの支援が受けられます。今までにこの認定は4団体が受けしており、それにより活発にまちづくり会活動が行われています。

認定授与式にご参加ください

●日時 5月20日(火) 午前10時~
●場所 常在寺前庭にて

上記「都市景観形成市民団体」の認定申請が早速認められ、認定授与式の日程が上記のとおり決定いたしました。

当日は、細江市長より堀会長に認定書が手渡され、まちづくり会への声援をいただきます。

「井の口まちづくり会」にとって記念すべき日です。地域の皆さんもぜひ授与式に立ち会っていただけますようご案内いたします。

まだまだ会員を募集しています

井の口まちづくり会への入会は、地域にお住まいの方はもちろん、このまちづくり活動に賛同いただける方ならどなたでも入会していただけます。

4月末現在、個人会員113人、団体会員21、口数合計252に達しましたが、実のところまだまだ会員が必要です。

年会費は、個人(1口500円)、団体(1口1,000円)で何口からでもお申し込みいただけます。直接または自治会長さんを通じて、会長の堀・会計の北川・事務局の河崎までお申し出ください。



記念講演をする加納宏幸氏

井の口から岐阜へ
設立総会において、元金華小学校長である元歴史博物館館長の加納宏幸氏による記念講演を開催しました。

資料を見ながら聞く井の口の歴史は、知っているようで知らないことが多く、絶妙なトークとユーモアで時間が瞬く間に過ぎました。これからも歴史だけでなく、勉強会を定期的に開いていきます。



会長 堀 達夫
(大宮1丁目住)

私たちの手でより良いまちづくり

歴史や文化を改めて再認識するとともに、この素晴らしい地に住むことに誇りを持つ暮らしていくたいと思います。

さらに、これらまちの貴重な財産を、私たちの次の世代に残していくための手立ての必要性を感じています。

金華のまち、それはかつて斎藤道三、織田信長が創りあげた町であります。

この金華のまちのなかでも、岐阜公園やぎふ大仏など、由緒ある歴史的財産や文化資産に恵まれた地域を中心、「井の口まちづくり会」が、去る3月23日めでたく発足いたしました。

私たちこの地域に住む者は、他の地域には見られないこれらの貴重な

この井の口まちづくり会に、地域の皆さまが一人でも多く参加している。ただ、その一人ひとりが期待に応え、何らかの役目を受け持ち、より魅力のあるまちづくりを目指してい

ただくことを願っています。

高森誠三(大宮町1)	杉山鉢一郎 (大宮町2)	嶋 敏彦(木挽町)	水谷利良(山口町)	荻野哲男(上茶屋町)	田秀夫(下茶屋町)	宇野 昌(今 町1)	植村 勉(今町2)	名和 利夫 (夕陽ヶ丘)	利夫(松下町)	後藤茂治(松山町)	原 一宏(夕陽ヶ丘)	藤本一二三 (夕陽ヶ丘県営住宅)	中村末雄(松 ヶ枝町北)	遠藤国夫(松ヶ枝町南)	久保田嘉一(今町3)	山口 篤(今 町4)	山田達夫(大仏町)	野々 村久雄(梶川町)	敬称略・順不同
------------	-----------------	-----------	-----------	------------	-----------	---------------	-----------	-----------------	---------	-----------	------------	---------------------	-----------------	-------------	------------	---------------	-----------	----------------	---------

本会は、皆さまからの会費と岐阜市の助成金で運営するものです。助成金は会が軌道に乗るまでの暫定的な資金でありますから、この会が永く役割を果たしていくためには、会員の皆さまの1口でも多い会費納入が頼ります。どうかご理解いただきご協力をお願ひいたします。

なお、会費納入のお知らせが届いておらず、納入がお済みでない会員の方は、会長の堀までお申し出いたただければ幸いです。

幹 事 会 計	安藤 幸延・杉山 範彦 北川 英生	会計監査 相談役	武井 英男・吉田 尚弘 杉山 周三・名和 利夫	区域自治会長のお名前	高森誠三(大宮町1)	杉山鉢一郎 (大宮町2)	嶋 敏彦(木挽町)	水谷利良(山口町)	荻野哲男(上茶屋町)	田秀夫(下茶屋町)	宇野 昌(今 町1)	植村 勉(今町2)	名和 利夫 (夕陽ヶ丘)	利夫(松下町)	後藤茂治(松山町)	原 一宏(夕陽ヶ丘)	藤本一二三 (夕陽ヶ丘県営住宅)	中村末雄(松 ヶ枝町北)	遠藤国夫(松ヶ枝町南)	久保田嘉一(今町3)	山口 篤(今 町4)	山田達夫(大仏町)	野々 村久雄(梶川町)	敬称略・順不同
------------	----------------------	-------------	----------------------------	------------	------------	-----------------	-----------	-----------	------------	-----------	---------------	-----------	-----------------	---------	-----------	------------	---------------------	-----------------	-------------	------------	---------------	-----------	----------------	---------

井の口まちづくり会は、昨年度設立準備会を立ち上げ、1月より地域全世帯へ入会案内を配布し、この会の趣旨を理解していただけるよう各自治会において説明と入会の呼びかけを行い、本年3月23日に発足したまちづくりの会です。

北川住職は梶川堀や道三が築いた城下町を、堀住職は妙照寺の由緒や歴史などを語り、約50人程の参加者が熱心に聞き入りました。

役員の紹介

会費納入のお礼

設立総会の受付にて会費納入をしていただいた会員の皆さん、また、4月以降に会費を自治会長さんなどに納入していただいた皆さんにお礼申し上げます。

井の口まちづくり会は、昨年度設立準備会を立ち上げ、1月より地域全世帯へ入会案内を配布し、この会の趣旨を理解していただけるよう各自治会において説明と入会の呼びかけを行い、本年3月23日に発足したまちづくりの会です。

北川住職は梶川堀や道三が築いた城下町を、堀住職は妙照寺の由緒や歴史などを語り、約50人程の参加者が熱心に聞き入りました。

戦国期・江戸期 「井の口」の歴史を探る



妙照寺会館で行われたイベント勉強会の様子

昨年12月15日土曜日、午後3時から妙照寺会館において、まちづくり会発足イベントとして、会の役員でもある常在寺住職の北川英生・妙照寺住職の堀智仙両氏による井の歴史勉強会を開催しました。

北川住職は梶川堀や道三が築いた城下町を、堀住職は妙照寺の由緒や歴史などを語り、約50人程の参加者が熱心に聞き入りました。

設立総会記念講演 第1回勉強会

井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日
発行・平成20年11月10日・第2号通信
責任者・堀 達夫(井の口まちづくり会会長)
〒500-8003 岐阜市大宮1-17 ☎058-263-9540
事務局長・河崎良史
E-mail・malo@he.mirai.ne.jp

まちづくり団体として市に認定されました



細江岐阜市長から「都市景観形成市民団体」の認定書を受け取る堀会長（常在寺にて）

部隊メンバーの紹介

前号で募集しました活動部隊メンバーに下記の方々がご応募くださいました。部隊にはいつでも、どなたでも参加できます。興味のある方、参加希望の方は会長(堀達夫)までご連絡ください。

- イベント部隊(フェスティバル部隊改め)
- 杉山 秀子(◎) 河崎 良史(○)
高橋紀久子 高橋かずえ
森 勝彦 後藤 勝利
伊藤いつお 塚原 紀好

- まちの歴史探索部隊
- 堀 智仙(◎) 中村 末雄(○)
北川 英生 杉山 周三
名和 利夫 安藤 幸延
鷺見 善治 鷺見 玲子
松原 和生 宇野 正雄
塚原 紀好 山下寿太郎

- わがまちマップ作成部隊
- 中村 末雄(○) 杉山 範彦(○)
名和 利夫 松原 和生
森 勝彦 伊藤いつお

- 広報通信作成部隊
- 事務局(○) 吉田 尚弘(○)
鈴木 芙美子 高橋かずえ
武井 英男
◎はリーダー ○は副リーダー

井の口まちづくり会 会長 堀 達夫

ついにまちづくり会が始動

本年3月に、皆さまのご理解とご協力のもとスター
トいたしました「井の口まちづくり会」が、早々に「都
市景観形成市民団体」に岐阜市より認定していただけ
る運びとなり、去る5月20日、常在寺において細江市
長より認定書の交付をいただきました。

当日は、認定書の交付に続いて、出席の会員の皆さ
まと市長さんを囲んで座談会を持つことができ、まち
づくりに対する市側への要望も多く語られました。

この市民団体の認定により、井の口まちづくり会は
期間限定ではありますが助成なり援助が得られます。
まちづくり活動の推進にとって大変有意義な認定であ
ると確信いたします。一方で、この認定を受け
たということは、言い換えれば市に対しても「私たちが
まちづくりについて責任持って実行していくます」と
宣言したものであります。

この地域に暮らす私たちが、私たちの手で、知恵で
この会を動かしていかなければなりません。その第一
歩として活動部隊メンバーを広く皆さんから募集し、
まず最初に、ぎふ大仏フェスティバルに協力いたしま
した。11月には「井の口まち歩き」を開催いたします。
どうか、会員はもとより、地域の多くの方たちとい
つしょに取り組んで行きたいと願ってやみません。

○×クイズに 子どもら歓声!

ぎふ大仏フェスティバル・参加協力奮戦記

今年3月に発足した井の口まちづくり会の活動として、大仏フェスティバルにどんな形で参加しようかと考えたのが小学生を対象とした「○×クイズ」です。隣の子と相談しながらキャラクターや歓声をあげ、○と×の境となっているロープの上を行ったり来たり。上級生の動きをしつかり目で追いながら、その後をついて回る下級生の子も忙しそう。

今年3月に発足した井の口まちづくり会の活動として、大仏フェスティバルにどんな形で参加しようかと考えたのが小学生を対象とした「○×クイズ」です。隣の子と相談しながらキャラクターや歓声をあげ、○と×の境となっているロープの上を行ったり来たり。上級生の動きをしつかり目で追いながら、その後をついて回る下級生の子も忙しそう。

内堀氏は、鍵となる年代として、1535～39年頃を挙げ、京藤道三が大桑(現山県市)城下町で学び、稲葉山城の改修と井口城下町を建設したとし、1567年織田信長による稲葉山城占領後もその結構え(城下町の周囲を土塁や堀で囲む)の内に手をつけた形跡は見あたらず、信長が小牧山に造った城下町は道三の近世都市井口を手本にしたと話されました。岐阜城は1600年に落城し、以後廃城となり、現在第4次発掘調査が行われています。

この夜は、約80人程の参加者が歴史の真実に熱心に耳を傾けました。

6月14日土曜日
午後7時から常在寺
本堂において、岐阜
市教育委員会社会教育課副主幹・内
堀信雄氏による井の口の歴史を岐阜
公園付近の発掘調査から探る勉強会
として開催しました。

内堀氏は、鍵となる年代として、1535～39年頃を挙げ、京藤道三が大桑(現山県市)城下町で学び、稲葉山城の改修と井口城下町を建設したとし、1567年織田信長による稲葉山城占領後もその結構え(城下町の周囲を土塁や堀で囲む)の内に手をつけた形跡は見あたらず、信長が小牧山に造った城下町は道三の近世都市井口を手本にしたと話されました。岐阜城は1600年に落城し、以後廃城となり、現在第4次発掘調査が行われています。

発掘から分かる
井の口のまち

第2回勉強会を開催
「井の口」の歴史を探る



内堀信雄氏による常在寺本堂で行われた第2回勉強会の様子

みんなでいっしょに井の口のまちを探索して歩くイベントです。

「井の口まち歩き」を開催!!

11月24日(祝)/午前9時～お昼/岐阜公園噴水前集合/小雨決行

持ち物・その他

- 各自お持ちください。飲み物は、ペットボトルのお茶を皆さんに一本ずつ用意します。
- コース内の建造物への入場・観覧では、建物の家主や住職からお話を聞いていただけます。
- コースの引率は、各部隊メンバーと井の口まちづくり会役員が当たり、「コースポイント」として、歴史などの説明をいたします。

スケジュール

- 8時30分 岐阜公園噴水前にて受付開始
- 9時00分 堀会長あいさつ
- 9時30分 木挽太鼓の会の皆さんによる演奏
- 11時45分 最終地点にて解散(予定)

参加者募集

- 参加条件 井の口まちづくり会に入会の皆さん是非ともご参加願います。町内単位で入会されている皆さまや、会員のご家族の皆さんも一緒に参加をお待ちしています。
- 会員以外の方でも、このまちに居住の人たちや企業・商店へ通勤している人たち、または井の口のまちの魅力発信に興味のある人なら、居住地を問わざどなたでも参加いただけます。

主旨・目的

- 目的 井の口まちづくり会のメンバーの皆さんにまちの魅力や隠れた財産を再発見していました。このまちへの愛着を深めていただくことを第一とし、さらには会員相互の親睦を深め、新たなる会員増加に向けての活動とします。
- また、当日皆さんから集めた情報は、今年度事業のメインである「わがまちマップ」作成に反映することを目的としています。

事業のメインである「わがまちマップ」作成に反映することを目的としています。

井の口の魅力や隠れた宝物を見つけよう



金色に輝く大仏さん

大仏さんの正式な
お寺の名称を
知っていますか。
大仏さんは何のために
誰が造ったのか。
日本二大仏って本当ですか。

有名になった御鮓街道。
その出発地となつた御
鮓所はこのまちの
どこにあったのか。
その御鮓はどんなすじで
どの誰に運んだのか。

ものづくりの
伝統が生きつ
づけるこのまちで
今もものづくりをして
いるお店はいくつ
あるのだろう。

このまちの美味しい
ものを探してみよう。

岐阜公園に
ライオンがいたんだよ。
ほかにはどんな動物がいたの。

ランビニ幼稚園を
知っている人。

昔の町名、今も残る町名で
このまちの歴史が分かる。

芭蕉は妙照寺にどのくらい滞在していたのか。
このまちに残る句碑を探してみよう。

梶川堀は昔、どこを流れていたのだろう。
妙照寺ってお寺に
なる前は、偉い武士の屋敷だった。
その武将は誰でしょう。

常在寺は道三の菩提寺、
道三はお坊さんの名前なの。
だつたらお墓もあるの。



国重文「斎藤道三
画像」を所蔵する
道三の菩提寺

大晦日に除夜の鐘をつきましょう

場所 妙照寺にて

妙照寺では毎年大晦日の12月31日の夜11時30分過ぎころから、鐘をつく人々で賑わっています。

皆さんも妙照寺さんの鐘について、輝く年を迎えてみませんか。



事務局だよ

事務局長 河崎良史

「井の口まちづくり会」が発足して半年が過ぎました。もう半年も経つのかを感じますが、結構密度の濃い時間を感じます。もう半年も経つ時間が感じます。特に、同じ地域に住む人と人がこの会で知り合い、親交を深めることができつあるのは、まちづくり活動の大きな成果です。色々な分野での才能にあふれた人がいっぱい住まわれているのかと感動しています。

私が思い込みでしょうが、金華地区でもこの井の口界隈に住む人々は温かで懇ましい心を持ち合わせている方が多いと感じています。ちょっと下町のにおいがするこの町が好きです。今回のこのイベントに多くの人が参加していただき、井の口のまちを愛する心がさらに深くなればと期待しています。

話は変わりますが、毎年夏の初めに飛び交う岐阜公園のホタルについては皆さんご存じかと思います。この地区的風物詩ともなっているホタルの世話を、多少なりともお手伝いしていただける方がございましたら当会までご連絡ください。お願いいえます。

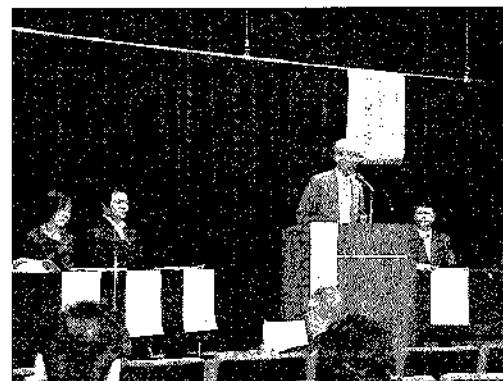
井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会
設立・平成20年3月23日
発行・平成21年4月25日・第3号通信
責任者・堀 達夫(井の口まちづくり会会长)
〒500-8003 岐阜市大宮1-17 ☎058-263-9540
事務局長・河崎良史
E-mail・malo@he.mirai.ne.jp

5月17日(日)平成21年度の総会を開催します



昨年は加納宏幸氏が講演



昨年の設立総会の様子

総会に出席の70歳以上の方、シルバーカードまたは高齢者おでかけカードをご持参ください。
受付後、総会が始まるまでのお時間、歴史博物館の展示を見学していただけますようお願いいたします。

「まちの風景検討部会」新設部会メンバーを募集

「金華・井の口マップ」の完成により「わがまちマップ作成部隊」は解散することとなり、替わって「まちの風景検討部会」が本年度から活動することになります。新部会では、都市計画道路拡幅の勉強会を実施し、安心して散策できる歩道のあり方などを検証していきます。

また、イベント部会は昨年同様、大仏フェスティバル、岐阜公園イルミネーションへの協力とまちづくり会独自のイベントを実施し、まちの歴史探索部会は歴史勉強会のほか、句会等の実施を行う予定です。広報通信作成部会は引き続き井の口まちづくり会通信の発行をします。

会員の皆様で部会に入っていただける方は、総会の受付でお申し出ください。

【昨年度の(部隊)部会メンバー】
(昨年まで部隊としておりました名称を
今年度より部会と改めます)

●イベント(部隊)部会
杉山 秀子(◎) 河崎 良史(○)
高橋紀久子 高橋かずえ
森 勝彦 後藤 勝利
伊藤いつお 塚原 紀好

●まちの歴史探索(部隊)部会
堀 智仙(◎) 中村 末雄(○)
北川 英生 杉山 周三
名和 利夫 安藤 幸延
鶴見 善治 鶴見 玲子
松原 和生 宇野 正雄
塚原 紀好 山下寿太郎

●わがまちマップ作成部隊
中村 末雄(◎) 杉山 篤彦(○)
名和 利夫 松原 和生
森 勝彦 伊藤いつお

●広報通信作成(部隊)部会
事務局(◎) 吉田 尚弘(○)
鈴木 芙美子 高橋かずえ
武井 英男
◎はリーダー ○は副リーダー

会員の皆様、参加願います

井の口まちづくり会会长 堀 達夫

早いもので、「井の口まちづくり会」も一年を経過し、二年目に入りました。発足当初は地区の皆様方のご理解、ご協力が果たして得られるかどうか不安もありましたが、個人・団体併せて160名余りの参加をいただくことができ、役員一同、大変意を強くして各事業に取り組むことができました。

二年目に入った本年は、前年度に引き続いての諸事業の展開のほかに、特に井の口地区の景観の保全整備問題に取り組んでいく方針であります。

かねてより申していますが、このまちづくり会は井の口地区にお住まいあるいはお勤めの方々全員の会であることモットーとして活動しています。

来る5月17日の総会には、会員の皆様方はもとより新たに当会への参加をご希望される方、一人でも多くお出かけくださいますようお願いいたします。

このまちの現状と未来を共に考えて行きましょう。

●日時 平成21年5月17日(日) 午後1時30分

受付開始は午後0時30分

●講演 場所 歴史博物館
八神 武夫氏(元金華小学校校長)
「肌で感じた井の口の魅力」

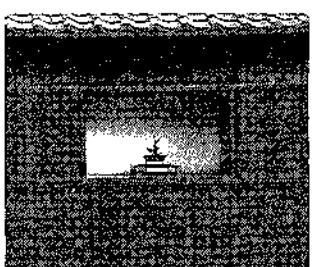
は中部学院大学短期大学部講師である八神氏は、その人柄と親しみやすさから、今でもこの地域の人々との交流が続きます。

総会特別講演の内容は、
1 心のよりどころの岐阜城・金華山と住民
2 金華・井の口の歴史に学ぶ
3 金華・井の口の町並みを訪れる
4 「慈善はまずわが家から」
イギリスの諺である
右の4部構成で進められます。

なかでもこの地にゆかりのある織田信長と斎藤道三の信頼関係について、常在寺にある道三と龍興親子画像について、妙照寺からは松尾芭蕉・竹中半兵衛について、正法寺のぎふ大仏、さらには御船所跡まで、詳しい資料を提示しながらその人物像や、時代背景を語つていただきます。

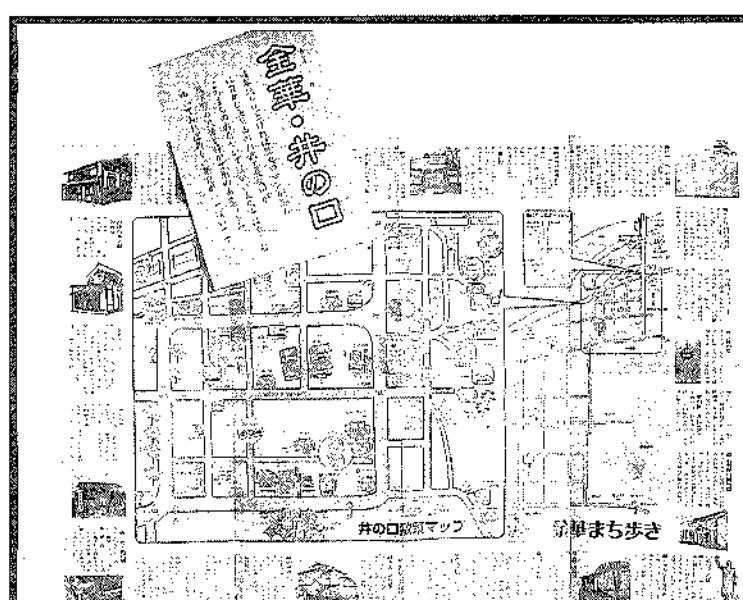
八神氏の深い知識と歴史観はもとより、この地に暮らす私たちにとっても「井の口の誇り」を実感できる内容です。

皆さんのお手元にもすでに届きましたでしょうか? 昨年度のメイン事業であった「金華・井の口マップ」が完成しました。この一年間、歴史勉強会やまち歩きなどで検証をしながら、わがまちマップ作成部隊を中心で広報通信作成部隊、役員の皆さんと事務局でマップづくりを進めてきました。



わがまちのもてなしの心。
飾り窓に生けられた1輪の花が道来る人をお出迎え。

井の口マップが完成しました!



まちのことを知るほどに再発見の連続であり、脚光を浴びている御船街がこのまちにあつた御船所から運ばれていたこと、道三が城下町の形を完成させ、梶川堀の西と東で町家と武家屋敷に分けられていたことなど、貴重な歴史資料といえます。

また、美濃和紙と竹を使った伝統工芸を製造するクラフトのまちであり、ギャラリー・ミュージアムのまちでもあります。

「金華・井の口マップ」は、まちの飲食店、料亭、店舗、ギャラリー、公共施設等のほか、常在寺・妙照寺・正法寺・ロープウェーなどに置かれ、観光客の皆さんの方は、会長または事務局長までお問い合わせください。

常在寺の西。今も小さな橋の下には梶川堀が流れてる。



秋の一日、名古屋城下の古い町並みと絞りのまちを訪ねます。

日帰りバス視察研修・有松

まちづくり会員2,000円 非会員3,000円 中学生1,000円 家族は会員と同じ

11月8日 日

- 日帰りバス視察研修の参加者を募集します
- 申込締め切りは10月18日(定員になり次第締め切り)
- 申込は左下の申込用紙を堀会長(大宮町1)へ
- 参加費は当日のバスの中にて徴収します

本年度、井の口まちづくり会のメイン事業であります「日帰りバス視察研修」の参加者を募集します。本事業は、他地域の先進のまちづくり活動にふれ、井の口まちづくり会の活動に生かせるよう探ることを目的としています。

視察先の有松は、東海道の茶屋町として始まり、絞りという伝統産業により発達したまちです。今も当時の面影を残した豪壮な町屋建築が建ち並び、まちづくり会活動が盛んに行われている地域もあります。

到着後は、有松案内人(あるいはびと)の会のメンバーと交流会をもち、その後、有松のまちを案内していただきます。鳴海絞会館では、絞りの実演見学やお買い物もできるよう長時間の滞在を予定しています。

昼食は有松内のお蕎麦屋でいただきます。昼食付きの視察研修です。

午後からは、名古屋城下の古い町並みが残る白壁・主税町地区へ足を伸ばします。一葉館(旧川上貞奴邸)、撞木館に入館し見学をします。さらに、旧豊田佐助邸も近く、この辺り一帯は「文化のみち」と称する町並み散策コースについていて、都市高速の高架と高層マンションが覆っていますが、武家屋敷を思わせる門構えの豪邸や広い敷地の高級住宅が建ち並び、市政資料館として公開されている洋風建築の旧裁判所が威光を放っています。自由時間を用意しますから、歩いてみてはいかがでしょう。

車中での飲食はご自由です。会で飲物とお菓子も用意します。また、行きの車中では視察地の事前説明をいたします。帰りは、視察地の感想をアンケート式に記入していただきます。筆記具を忘れずにお持ちください。

多数の皆さまのご参加をお待ちしています。お申し込みは中学生以上、10月18日までといたしますが、定員になり次第締め切ります。

本年度、井の口まちづくり会のメイン事業であります「日帰りバス視察研修」の参加者を募集します。本事業は、他地域の先進のまちづくり活動にふれ、井の口まちづくり会の活動に生かせるよう探ることを目的としています。

視察先の有松は、東海道の茶屋町として始まり、絞りという伝統産業により発達したまちです。今も当時の面影を残した豪壮な町屋建築が建ち並び、まちづくり会活動が盛んに行われている地域もあります。

到着後は、有松案内人(あるいはびと)の会のメンバーと交流会をもち、その後、有松のまちを案内していただきます。鳴海絞会館では、絞りの実演見学やお買い物もできるよう長時間の滞在を予定しています。

昼食は有松内のお蕎麦屋でいただきます。昼食付きの視察研修です。

午後からは、名古屋城下の古い町並みが残る白壁・主税町地区へ足を伸ばします。一葉館(旧川上貞奴邸)、撞木館に入館し見学をします。さらに、旧豊田佐助邸も近く、この辺り一帯は「文化のみち」と称する町並み散策コースについていて、都市高速の高架と高層マンションが覆っていますが、武家屋敷を思わせる門構えの豪邸や広い敷地の高級住宅が建ち並び、市政資料館として公開されている洋風建築の旧裁判所が威光を放っています。自由時間を用意しますから、歩いてみてはいかがでしょう。

車中での飲食はご自由です。会で飲物とお菓子も用意します。また、行きの車中では視察地の事前説明をいたします。帰りは、視察地の感想をアンケート式に記入していただきます。筆記具を忘れずにお持ちください。

多数の皆さまのご参加をお待ちしています。お申し込みは中学生以上、10月18日までといたしますが、定員になり次第締め切ります。

「御鮎街道ウォーク」

歴史探訪型ウォーク 10月17日(土)

参加費無料(途中参加・離脱自由・小雨決行)

岐阜市制と笠松町制120周年を記念して、従来は笠松町あるいは白山地区において行われてきた鮎街道ウォークを、今年は街道の全地域での取り組みとし、西野自治会連合会長を会長とした実行委員会を立ち上げて実施します。

●行程	9:00 受付	川原町鵜飼乗船事務所前
	9:30 川原町	開会と出立イベント
	10:20 井の口	御鮎所跡にて献上鮎の解説
	10:55 伊奈波	白木町公園(トイレ休憩)
	11:20 美園	御園の複数で楽市樂座の解説
	12:00 白山	溝端公園(ランチタイム) 各自弁当持参、鮎焼き出店
	13:00 再スタート	溝端公園
	13:30 加納	茶所駅手前の神社で解説
	14:25 川手	鮎鮎荷を笠松勢にバトン
	14:35 茜部	境川橋南脇
	15:00 笠松	福祉会館(トイレ休憩)
	15:25 問屋場	高嶋家にて宿次の解説
	15:55 木曽川湊	到着イベント・鮎雜炊

句碑めぐり勉強会

11月23日(祝)参加者募集

9時30分 伊奈波神社広場集合
講師・インストラクター 大野鶴士先生

●行程 伊奈波神社広場(スタート)→妙照寺(入室)→岐阜公園→鵜飼乗船事務所(お昼前解散)

松尾芭蕉が妙照寺に滞在し、この地に多くの俳句を残したことは皆さんよくご存知ですが、一步進んで、俳句の世界を覗いてみませんか。

今回、大野鶴士先生をお招きして、この地に残る句碑を巡りながら、俳句の勉強会を企画しました。当日の朝、伊奈波神社広場へ集合してください。

なお、井の口まちづくり会では、来春妙照寺での句会を企画しており、今後「俳句入門講座」「俳句を作つてみようの会」を開催していきます。

「井の口文化人」を目指しましょう。

当山の土壙は創業以来250年を経て最近特に老朽化が進み、景観上大変ご迷惑をおかけしておりました。この度、市・ふれあいまち公社のご理解とご協力をいただき、無事修復工事が完了いたしました。

4月29日には、好天に恵まれ、沢山の方が「ひとコテ」に参加していました。泥にまみれ、皆さんで塗っていました。だき、心のこもった土壙になりました。これからも、この土壙を思い出の端としていただけたらと思います。紙面をお借りして御礼申し上げます。

妙照寺住職 堀智仙



4月29日に行われた「しつくい塗りイベント」の様子

妙照寺土壙改修完成

しつくい塗りイベント

アメリカの政治がチエンジして日本への政治もチエンジしました。体制がチエンジしたら、中身がどのような変わっていくのか、じっくりと拝見させていただくこととして、「まち」は進化すべきところと、変わらないことをよしとするところがあると思います。

金華地区は街区の骨組みが形成されてから極めて変化が少ないまちです。それが脈々と歴史と文化を継承できた要因の一つでしょう。

今、妙照寺辺りから大仏殿前を経由して萬松館辺りまで道路の拡幅事業が進んでいます。この事業はまちの大きなチエンジといえます。交通量の割りに歩道が狭く、散策するには適しないこの道が、まちの魅力を高めるためのチエンジになれば素敵なものになるでしょう。

まちづくりとは、個人の自分がまちにどんな貢献ができるか考えて行動することだと思います。このまちを愛する気持ちが行動の原点になるはずです。みんなで考えてみてはどうでしょうか。

日帰りバス視察研修 参加申込書

氏名			
住所	TEL — —		
同行者名			
参加費	会員2,000円 家族2,000円	非会員3,000円 名 中学生1,000円	名 名

事務局だより

事務局長 河崎良史

平成21年度「井の口まちづくり会」部会活動報告

井の口に広がるまちづくりの輪

井の口まちづくり会の活動は各部会のメンバーが主体となって運営しています



提灯と高座がマッチする妙照寺の本堂



妙照寺本堂

井の口まちづくり会として活動していました。当初は、フェスティバル部隊として活動していましたが、2年目からはイベント部会と改め、ぎふ大仏フェスティバルにおいて2日間、子どもたちのゲームを担当しイベントを盛り上げています。

また、大仏フェスティバルに飾られた行灯の絵を岐阜公園イルミネーションの会場に飾り付けており、来場者にも好評を得ています。

2月には「井の口寄席」を妙照寺本堂において開催しました。昨年はぎふ町家情報バンクに協力という形でしたが本年からは主催し、継続事業となりました。

全日本学生落語選手権策伝

大賞に全国の大学から193名が

参加され、そのうちの10名に

出演していただき、提灯が並

ぶ妙照寺本堂がにわか仕立て

の寄席会場となつて笑いの輪

に包まれました。

本年は、決勝に残られた立

命亭雷都さんと特別賞受賞の

桜ん坊恋歌さんの落語を聞く

ことができました。

妙照寺本堂

開催

しました。

2月には「井の口寄席」を

妙照寺本堂

において

開催

しました。

井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会
設立・平成20年3月23日
発行・平成22年9月10日・第6号通信
責任者・堀 達夫(井の口まちづくり会会长)
〒500-8003 岐阜市大宮町1-17 ☎058-263-9540
事務局長・河崎良史
E-mail・malo@he.mirai.ne.jp

3年目を迎えたな取り組みを展開中

平成22・23年度の役員

会長	堀 達夫
副会長	小林 孝夫
	杉山 秀子
	堀 智仙
事務局長	河崎 良史
会計幹事	名和 利夫
幹事	安藤 幸延
	伊藤いつお
	北川 英生
	鈴木美美子
	武井 英男
会計監査	杉山 周三
相談役	高橋かずえ
	松原 和生
	吉田 好成



岐阜市副市長武政 功氏が来賓の挨拶(4月29日、市歴史博物館にて)

平成22年度の部会活動とメンバーの紹介

22年度の部会活動がすでにスタートしています。イベント部会は、大仏フェスティバル、岐阜公園イルミネーションへの協力と2月に井の口寄席を実施し、3月頃に茶会の催しを予定しています。まちの歴史探索部会は、昨年に続き句会を開催し、御船街道ウォークへ協力をています。まちの風景検討部会は、バス視察研修をはじめ道路拡幅に関する勉強会に加え、まちの探索を実施します。新設のまちなかアート部会は、お月見会や大仏様への年賀状の催しなどを実施します。広報通信作成部会は、事務局と役員で構成することになりました。

下記に各部会メンバーを紹介します。一緒にまちづくり活動をしていただけるメンバーをいつでも受け付けています。

●イベント部会	杉山 秀子 (○) 河崎 良史 (○)
高橋紀久子	高橋かずえ
後藤 勝利	篠田 寿夫
杉山鉢一郎	神山 明

●まちの歴史探索部会	河崎 良史(代行) 中村 末雄 (○)
森 勝彦 (○)	北川 英生
杉山 周三	安藤 幸延
鶴見 善治	鶴見 玲子
塚原 紀好	森 喜彦

●まちの風景検討部会	小林 孝夫 (○) 堀 智仙 (○)
名和 利夫	松原 和生
木野村英機	野々村聖子
澤田 勝美	

●まちなかアート部会	伊藤いつお (○) 杉山 範彦 (○)
鈴木美美子	武井 英男
伊藤 克司	矢島 康治
山吉 りか	小林 敦子
馬場わかよ	

●広報通信作成部会	事務局 (○)
会長・副会長・部会リーダー	
○はリーダー ○は副リーダー	

平成22年度総会に出席ありがとうございました

井の口まちづくり会会長 堀 達夫

早いもので「井の口まちづくり会」も発足以来まる2年が経過いたしました。

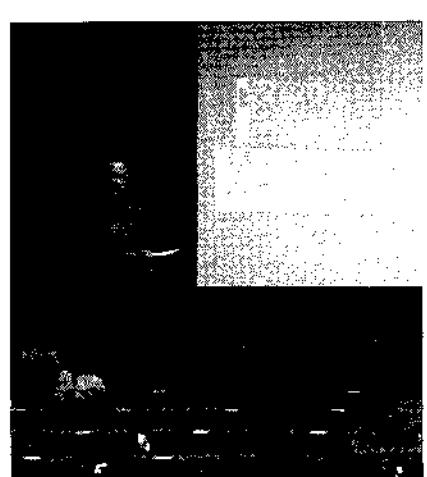
この間、古き良き井の口のまちを大切に保全し、且つ、より素晴らしいまちにして次の世代に引き継いでいくことを基本として、諸々の事業に取り組んできました。

3年目となる本年も引き続き数々のイベントの開催をはじめ、先進まちづくりの視察研修、景観対策などを実施いたしますとともに、新たな取り組みとして歴史と風情が残るこの井の口地区にふさわしい「アートのまちづくり活動」を展開して参りたいと存じます。

会員の皆さんの一層のご支援をお願いしてやみません。

まちの宝を活かして、歩いて楽しいまちづくり

総会特別講演



愛知産業大学大学院教授 延藤 安弘氏

ハツスルしました子どもたち 大仏さんも粹なはからい?

延藤先生は、金華、特に井の口地区を何度も訪れていて、みんなでこの地区的宝を見直すと同時に、大切に育てていくことの重要性を幻灯を駆使して訴えられました。

歴史的、文化的に重要な寺院をはじめ、

手づくりのお店、窓辺の飾り付け、そして

見上げれば金華山にそびえ立つ岐阜城の素

晴らしい景色など。私たち井の口地区の住

民は、これらの宝に一層の磨きをかけて、

子孫にプレゼントしていくことを心掛けた

いと感じました。

また、先生が実践されている「まちの縁

側育み隊」の活動紹介や、子どもの視点か

らまち育てを考える、すなわち子ども達の

想像力に期待してまちづくりに取り組むこ

との大きさを訴えられ、講演内容に深く共

感を覚えました。



撮影・篠田壽夫氏

7月18、19日の両日、第23回ぎふ大仏フェスティバルが行われました。井の口まちづくり会では、イベント部会を中心に、このフェスティバルの盛り上がりに一役買おうと、3年前から協賛しています。今年は、初日には「みんなでオセロ」、2日目には「カンカンはこび」を実施。オセロでは表が白、裏が黒のプレートをあらかじめ各80枚ずつ並べておき、それを制限時間内に裏返して自分のチームの色を多くした方が勝ち。カンカンはこびは自分のチームの箱にある空き缶を相手チームの箱へ運び、味方の箱の中の空き缶を少なくした方が勝ちというものです。両日とも猛暑の中、ちょっとハードなゲームのため汗まみれになつた方が勝ちというものです。

結果にみんながびっくり! 全員に賞品を差し上げ楽しいひとときを過ごしました。

なお、井の口まちづくり会の活動がゲームの模様を含めて岐阜新聞に大きく掲載されました。(森)

7月18、19日の両日、第23回ぎふ大仏フェスティバルが行われました。井の口まちづくり会では、イベント部会を中心に、このフェスティバルの盛り上がりに一役買おうと、3年前から協賛しています。今年は、初日には「みんなでオセロ」、2日目には「カンカンはこび」を実施。オセロでは表が白、裏が黒のプレートをあらかじめ各80枚ずつ並べておき、それを制限時間内に裏返して自分のチームの色を多くした方が勝ち。カンカンはこびは自分のチームの箱にある空き缶を相手チームの箱へ運び、味方の箱の中の空き缶を少なくした方が勝ちというものです。両日とも猛暑の中、ちょっとハードなゲームのため汗まみれになつた方が勝ちというものです。

結果にみんながびっくり! 全員に賞品を差し上げ楽しいひとときを過ごしました。

誰もが知っているまちの風景。駅前から茶道具商を営む先代がこの窓に茶花のあしらいを始め、四季折々に庭に咲く花や手に入れた花で今のご主人でも40年以上続けてみえます。冬でも何日も同じ花はないところが言うほどご主人のこだわりを映し、特に夏場は窓の中はサウナ状態なので氷を入れたり1日で花を替えたりと陰で奥様が支えられます。

濃尾震災でも焼けなかつたというこの家の玄関は、舟底天井に坪庭がしつらえられ、茶室がある趣のあるお宅です。中を拝見できなくとも、飾り窓からこの家の住人のアート感が伝わってきます。



(馬場)

まちなかお宝アート発見

誰もが知っているまちの風景。駅前から茶道具商を営む先代がこの窓に茶花のあしらいを始め、四季折々に庭に咲く花や手に入れた花で今のご主人でも40年以上続けてみえます。冬でも何日も同じ花はないところが言うほどご主人のこだわりを映し、特に夏場は窓の中はサウナ状態なので氷を入れたり1日で花を替えたりと陰で奥様が支えられます。

濃尾震災でも焼けなかつたというこの家の玄関は、舟底天井に坪庭がしつらえられ、茶室がある趣のあるお宅です。中を拝見できなくとも、飾り窓からこの家の住人のアート感が伝わってきます。

まちなかお月見アートを開催

金華山にかかる仲秋の名月をめでる4日間

9月20日(敬老の日)・21日(火)・22日(十五夜)・23日(秋分の日・望)

23日は井の口のまちの3つのエリアをお月見スタンプラリーで回りましょう



岐阜城にかかる晩秋の名月(一昨年)、撮影・矢島康治氏

お月見の豆知識

暦では8月の立秋からを秋としていて、8月を初秋、9月を仲秋、10月を晚秋と称して旧暦8月15日の月を「仲秋の名月」と呼んで尊びました。唐の时代中国でもこの美しい満月に収穫期の野菜や果物を供えて月を拝み、鑑賞していました。この風習が平安時代の日本に伝わり貴族社会に受け入れられブームとなりました。日本人の心と月をめでる感覚がうまくマッチして、江戸時代には一般家庭や農村にまでひろがり、この時期、畠で取れる芋を供えたことから「芋名月」となり、10月の十三夜には豆や栗を供えることから「豆名月」「栗名月」といわれるようになりました。昔の人は十三夜にも同じ場所で月を見ることしていて、片方だけしか観ないことを「片月見」といって嫌いました。

十五夜の22日は旧暦8月15日あたり、23日は月が望、すなわち満月です。23日にはスタンプラリー形式で3つのエリアを回っていました。月見、ゴールの伊藤家にて湯茶などの振る舞いをします。雨天の場合はスタンプラリーは中止しますが、伊藤家にて茶話会を催します。

お月見ですからお天気次第となります。また、指定エリア以外のお宅でもお月見の創出をしていただけますようご協力をお願いいたします。

今年度からスタートしたまちなかアート部会は、井の口に残る城下町の風情と、静かで趣のあるこの町並みを活かして、にぎわいとまちの一体感、そして美しさを創出することを目的に活動する部会です。その記念すべき最初の催しとして「まちなかお月見アート」を企画しました。金華山に映える仲秋の名月をまちの3か所ほどをメインスポットに、お月見の風情を演出し鑑賞することを提案するものです。

期間は9月20日から23日までの4日間で、妙照寺と常在寺から大仏殿にかけての通りを第一エリア、戦国の大通りに面した四つ角を第二エリア、長良橋通りの伊藤家(ふくろうの家)を中心に第三エリアとし、エリア内にあるお宅の玄関先や軒先に用意したススキを飾っています。など、お月見の風情を創り出していただくようご協力をお願いしています。また、大仏殿の東側の軒下には、若手作家・後藤譲氏による「おぼろげな月の光のもと、ウサギの影が遊ぶアート作品」が展示され、今回の催しに花を添えています。

ススキとアートでお月見の風情を演出

第2回御鮎街道ウォーク 9月25日(土)

全長9キロ(途中参加、離脱自由)・参加費無料・小雨決行

昨年、多くの参加者を得て行われました歴史探訪型のウォークが今年も開催されます。今年は岐阜公園総合案内所をスタート地点とし、出発前には木挽太鼓の演奏があります。

●行程 9:00 岐阜公園総合案内所 出発前イベント(木挽太鼓の演奏)

10:00 出発

お鮎所跡(資料配布)→白木町公園(湯茶の接待)→御園の棟(資料配布)

12:00 溝端公園(昼食、イベント)

加納八幡神社(湯茶の接待)

14:30 川手旧バチンコ店前(宿次イベント)

15:30 笠松問屋場・高嶋家(宿次の解説)

16:00 笠松湊ゴール(鮎雜炊の振る舞い)

(まちの歴史探索部会)

景観デザイン「我がまち探索」を12月に実施します

まちづくり活動を進めるには、我がまちをよく知ることが重要です。

私たちが毎日暮らすまちですから、知っている、分かっているつもりでいますが、観方を変えることによって、思わぬ発見に遭遇するものです。

●「我がまち探索」実施日 平成22年12月5日 日曜日(予定) ●

みんなで日頃見慣れた風景を新たな視点で探索しましょう。その結果を整理して、魅力ポイントや課題の共有、さらには新しい提案につなげる試みです。(まちの風景検討部会)

第2回日帰りバス視察研修「長浜」

11月7日(日) 参加費2,000円 先着50名

井の口まちづくり会員限定企画(申込時の会員受付可)

まちの風景検討部会では、昨年度に引き続きまちづくり活動の勉強と会員相互のコミュニケーションを目的として、視察研修を企画しました。

バスによる移動で変貌を続ける滋賀県「長浜」を訪ね、まちづくりの経緯、課題と解決方法などを学習した後、まちなか散策を楽しめます。

新しい「長浜」は商業のまちづくりで成功したまちですが、地域住民の結集した熱い思いはいずれのまちづくり活動にも共通するものです。魅力的な井の口の継承活動を目指す私たちにとって有意義な視察となることでしょう。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

●開催日 平成22年11月7日 日曜日

●集合場所 岐阜公園名和昆虫博物館 東側

8時15分(出発8時30分厳守)

●集合時間 10時~12時 NPO長浜まちづくり役員との交流

12時~13時 のっぺいうどんの昼食

13時~15時 黒壁スクエアおよび周辺自由散策

17時15分頃 岐阜公園着(途中「胡麻の里」にて休憩)

●参加費 2,000円(会員限定料金・当日乗車前に集金します)

●申込方法 10月10日(日)まで(先着50名で締め切ります)に、堀 会長宅(大宮町1丁目・電話263-9540)へ下記申込書を持参

まちづくりの基本も同じだと思います。今年は、例年以上に猛暑の夏でした。というより未だに厳しい暑さが続いております。ここ数年の異常気象が大変にしなければならない地球を人間自らが傷つけた結果であることは、誰もが思っていることでしょう。未来の子孫に地球を地球らしく渡すためにはもっと努力が必要なのでしょう。

まちづくりの魅力も人々の魅力もひつくるめて未来に伝える。色々な価値観が大きく変化している今こそ大切な時だと思います。

井の口まちづくり会は部会の活動が活発になり、特にアート部会のお月見イベントなど新しい試みで楽しめます。また、歴史探索部会のリーダーが今年は自治会等の業務が爆発的に増え、まちづくり会に費やす時間が限られてきましたので、私が代行として動くことにしました。句会の開催など企画を進めて参りますのでよろしくお願いします。

事務局だよ

「長浜」バス視察研修参加申込書

氏名		
住所	TEL - -	
同行者名 (家族のみ)	受付No.	

井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日
発行・平成23年1月10日・第7号通信
責任者・堀 達夫(井の口まちづくり会会长)
〒500-8003 岐阜市大宮町1-17 ☎058-263-9540
事務局長・河崎良史 E-mail・malo@he.mirai.ne.jp
通信編集・作成 事務局 馬場わかよ

長浜バス視察研修に参加して



参加者そろって記念撮影

■視察研修アンケート報告

回答者	42名
開催時期	良い40名
集合時間	適当39名
解散時間	適当38名
移動時間	適当39名
研修地	適当28名
地元交流	良かった35名
食事内容	適当27名
その他	期待以上14名
	期待はずれ0名
	早い2名
	遅い0名
	早い2名
	遅い1名
	短い1名
	長い2名
	期待以上14名
	期待はずれ0名
	工夫が必要4名
	不十分1名
	旨い13名
	口に合わなかった1名

その他として、他地域の事例を見ることにより井の口地区を見直すきっかけになった(32名)、まちづくり活動に興味を持つことができた(14名)、他地域のまちづくり会と交流ができ、今後の活動の参考になった(13名)、井の口まちづくり会のコミュニティづくりになった(13名)などのほか、今後も研修会や勉強会に参加したいが23名あり、その後の役員会で来年も継続することが了承されました。

長浜バス視察研修に参加して
まちづくりの成功例として名高い長浜市の黒壁エリアに、まちの風景検討部会の企画で、11月7日(日)、紅葉間に近な秋晴れのなかバスで会員44名が出かけてきました。NPO法人「長浜まちづくり役場」の前理事長・山崎さんの体験を交えた熱のこもった講演は、まちづくりを考える私たちにとって大変勉強になりました。

曳山博物館も見学して、山車を担当する金華地区の住民としても参考になりました。また、行程の中で井の口まちづくり会の会員相互の親睦も深めることができ、有意義な視察研修になりました。

好天に恵まれて久しぶりのまち歩きを楽しみました。

今町一

鈴木美美子

バスが走っているすぐの開知学校に案内され、「長浜まちづくり役場」前理事長によるまちづくり会ができるときさつなどの熱の入つたお話しに思わず引き込まれました。その後まちに出て「曳山博物館」を見学し、偶然開催していた子供歌舞伎を見ました。古い伝統

持ちであります。

それによって井の口まちづくり会はこれが

出発点です。でも、私たちは金華山と長良川という素晴らしい景観を持っています。この山と川の風景こそが世代を超えたかけがえのない財産だと思いました。

多くの人が訪れる商人のまちとして「楽市楽座」の方策を取り入れたまちづくりに、井の口も先人の投資し、住民と一緒にになって知恵を出し合い、再び訪してくれる活力あるまちになればと思います。

戦国時代の豊臣秀吉が、戦功によって琵琶湖東畔の寒村だった長浜の領主となり、城を築城してから

は常に住民とともに財を求める、蚕を飼う織から織糸を取り織にする一連の産業を育て、後に地の利を活かして京貢服の代表的な生地「浜ちりめん」の産地へと発展していく長浜です。

このまちは商工業の発展により富を得て、地域

の歴史に残る多くの華麗なる文化を育てつつ、また

そのままであります。

昭和初期の建造といふことですが、所兼本宅として使われていました。

寺と常在寺から大仏殿にかけての

第一エリア、戦国の大道に面した第

屋根神様の四つ角を中心とした第

2エリア、ふくろうの家(伊藤家)

を中心とした第3エリア内のそれ

ぞにある家の軒先に飾っていた

だきました。部会員の予想を大き

く上回る参加をいただき、皆さま

のご協力に感謝申し上げます。

また、大仏殿の東軒下では後藤

譲さん作「月と兔」とのアート作品

が展示され、大仏殿の花頭窓の明

かりや通りを走る車のヘッドライトに兔の影が浮かび、ゆれるシ

ン

ことが了承されました。

みんなの知恵で「道路づくり」を

安全なまちづくりの第一歩は、道路の整備にあります。

井の口地区では、戦国の大道に続いている現在、高富街道(大宮町~松ヶ枝町~梶川町)の拡幅整備工事が進められています。

将来を見据え、かつまた移転を余儀なくされた方々のためにも、行政と地区住民が一体となって立派な道路づくりが進められるよう道路拡幅計画の勉強会を予定しています。

皆さまの知恵とアイデアで、道路づくりに参加ていきましょう。

ご意見お待ちしています

まちづくり会や部会イベント、また皆さまのお手元にお届けしている「通信」などに対してのご意見、ご要望、あるいは活動へのご協力やご提案などがございましたら、ご遠慮なくお申し出ください。

井の口まちづくり会会长 堀 達夫

9月20日(祝)~23日(祝) まちなかお月見アートを開催しました

仲秋の名月をめでる4日間



ゴローの伊藤家にてお月見のふるまい



(撮影・矢島康治) 玄関先にススキのある風景

スタンプラリーに98名が集う!

金華山にかかる仲秋の名月をめでる「まちなかお月見アート」を、

9月20日から4日間にわたり開催しました。まちなかアート部会

のメンバーが関や揖斐、高富などから調達したススキなどを、妙照寺と常在寺から大仏殿にかけての

第一エリア、戦国の大道に面した寺と常在寺から大仏殿にかけての

屋根神様の四つ角を中心とした第2エリア、ふくろうの家(伊藤家)

を中心とした第3エリア内のそれを

ぞにある家の軒先に飾っていた

だきました。部会員の予想を大きく上回る参加をいただき、皆さま

のご協力に感謝申し上げます。

また、大仏殿の東軒下では後藤

譲さん作「月と兔」とのアート作品

が展示され、大仏殿の花頭窓の明

かりや通りを走る車のヘッドライトに兔の影が浮かび、ゆれるシ

ン

ことが了承されました。

最終日の23日にはスタンプラリーを開催し、ゴローのふくろ

りーを開放し、ゴローのふくろ

の家ではお月見の団子、お菓子とお抹茶のふるまいをして、

ボル作品は好評で、ひとときの

影絵を楽しみました。



彫刻家・後藤譲氏の作品「月と兔と」20日から4日間、大仏殿の東軒下に展示され、夜は点灯された

浅野邸は可愛い箱形の板張り外観。そこで愛称を「キューピックハウス」としました。今後もいろいろな催しに登場予定です。

12月5日(日)に行われた「我が家まち探索」では、駐車場を集合場所に、応接室は休憩所に提供していただきました。当日は奥様のご厚意でお宅の中も見学させていただき、昭和レトロのモダンな美しい住まいに、参加者は感動ひとしおでした。

1月14日~16日には「井の口の年賀状展」を開催します。



茶室へ続く中庭の踏み石には、創業者である祖父が臼を試作するために日本各地から集めた石が入れてある

くことになりました。

昭和初期の建造といふことですが、中に入つてビッククリ。応接室の天井は高く、モダンな洋館の風情が至るところにあるかと思えば、中庭を抜けると茶室がしつらえてあり、当時としても粹な和洋折衷の造りです。

ご主人のお母様がこの家をとても愛し、建て替えないで残してと希望されて現在に至ります。嫁いで三十五年となる奥様も「亡き義母と同じ思いを感じるようになり、この家を残し、皆さまにも使っていただければ」と言われます。これからまちづくり会活動等に利用させていただくことになりました。

昭和初期の建造といふことですが、所兼本宅として使われていました。昭和初期の建造といふことですが、中に入つてビッククリ。応接室の天井は高く、モダンな洋館の風情が至るところにあるかと思えば、中庭を抜けると茶室がしつらえてあり、当時としても粹な和洋折衷の造りです。

ご主人のお母様がこの家をとても愛し、建て替えないで残してと希望されて現在に至ります。嫁いで三十五年となる奥様も「亡き義母と同じ思いを感じるようになり、この家を残し、皆さまにも使っていただければ」と言われます。これからまちづくり会活動等に利用させていただくことになりました。

下茶屋町の通りを歩くと興味をひく板張りの四角い建物があります。浅野鉄工所さんの旧本宅です。浅野鉄工所は製糞や製糞、飼料などの企業にふるい機を設計製作施工する会社で、先々代のおじいさまが創業です。この建物はかつては事務所兼本宅として使われていました。

下茶屋町の通りを歩くと興味をひく板張りの四角い建物があります。浅野鉄工所さんの旧本宅です。浅野鉄工所は製糞や製糞、飼料などの企業にふるい機を設計製作施工する会社で、先々代のおじいさまが創業です。この建物はかつては事務所兼本宅として使われていました。

まちなかお宝アート発見 下茶屋町の浅野邸キューピックハウス

井の口まちづくり会・イベントのご案内(1月~3月開催)

イベント部会 井の口寄席

2月27日(日)/大仏殿の庫裏

■ 第8回全国日本学生落語選手権「策伝大賞」の出演者による井の口の学生落語会です。昨年会場となつた妙照寺本堂は改修中のため、今年は正法寺庫裏に移して開催します。

当夜は10名ほどの出演を予定しています。入場料は午後5時30分からで、開演は6時です。

どなたでも多くの方の観覧をお待ちしています。

木戸銭として一人300円です。

※中入りには温かい豚汁のふるまいがあります。



昨年の井の口寄席の様子

第2回 まちの歴史探索部会 俳句こと始め

3月21日(祝)/句会は会員のみ30名



井の口は松尾芭蕉が滞在した妙照寺をはじめ俳句にゆかりの深い地区です。今回は杉山婦人会長のご厚意により杉山邸をお借りして、昨年に続き大野鶴士先生を招いて句会を催します。

リーダー代行 河崎 良史
講師 大野鶴士先生

会員 3000円(お抹茶付き)
申込時の会員
受付が可で定員
30名になり次第
締め切ります。
初心者と初参加
の方歓迎です。

会場 杉山邸(萬松館北隣・大富町2)
日時 3月21日(祝)
10時~12時
※堀会長に申し込み 電話 263-9540

■さよなら杉山邸(自由参加・無料)
杉山邸は道路拡幅によりこのあと取り壊されます。最後にこの屋敷の見学会とお抹茶のひとときをご堪能ください。

リーダー 杉山 秀子

同日開催・さよなら杉山邸「お茶と見学会の催し」

■第2回俳句こと始め(会員限定企画)

会場 キューピックハウス(下茶屋町)
会期 右記と同期間・同時間

※年賀状は宛名人に後日お返しします。

まちなかアート部会 大仏様への年賀状

1月14日(金)~16日(日)光芳堂にて展示

まちなかアート部会の第2弾は「大仏様への年賀状」です。これは手づくり、手書きの年賀状、あるいはパソコン使用であつてもオリジナルな年賀状であることを条件に、ぎふ大仏様宛に郵送または大仏殿受付の投函箱に1月10日までに入れていただき、届けられた年賀状を皆さんに見ていただこうという企画です。毎年描かれる年賀状の中の一枚を、日本三大仏の一つ、慈悲溢れる正法寺の大仏さまにも差し上げて、新しい年の幸せをお願いされてはいかがでしよう?

■大仏様への年賀状展

場所 画廊・光芳堂(梶川町)
期間 1月14日(金)~16日(日)
時間 10時~17時(最終日16時)

会員の皆さまのお手元に届いた手づくりの年賀状を1月10日までに、伊藤いつお、杉山範彦(光芳堂)、堀会長宅へお寄せください。プライバシーにかかわらぬじものを選んで年賀状展を開催します。

※年賀状は宛名人に後日お返しします。

同時開催・井の口の年賀状展(浅野邸・キューピックハウス)

リーダー 伊藤いつお

■大仏様への年賀状展

場所 画廊・光芳堂(梶川町)

期間 1月14日(金)~16日(日)

時間 10時~17時(最終日16時)

「我がまち探索」主旨と結果報告

事務局だより

事務局長 河崎良史

新年明けましておめでとうございます。昨年までは年に2回ずつの発行でしたが、今期3回目の「通信」をお届けします。今年はそれだけ会員の皆さまへお伝えしなければならない事柄があるということです。

特に今年発足した「まちなかアート部会」の活動が活発で、お月見アート企画は大変好評でした。遠くまでスキを取りに行つた部会員にも見つめ直し、魅力的なスポットなど、新たに発見を試みる催しに32名の会員が参加しました。約2時間の探索でしたが、結果は今後の井の口まちづくり企画に反映していきたいと思います。

当日は下茶屋町の浅野鉄工所本宅と河村邸も見学させていただきました。外観だけでなく、歴史を醸し出す間取り、材質そして美しい庭に会員一同堪能するとともに、先人が築いた井の口の誇りも再確認することができました。ご好意を賜りました方々にお礼申し上げます。

頭が下がりますが、地区の方々が積極的に協力していただけ、町並みと風情を活かしたとても素適なイベントになりました。地域の輪が拡がるきっかけとなればと思います。

昨年発足した「まちの風景検討部会」も今年はいよいよ本格的な活動を始めています。この部会では井の口らしい景観を捉え、次世代へ美しい風景を継承していく提案を検討しています。「我がまち探索」もその一環の事業になります。

それと並行して、事務局の主なメンバーが所属する「金華まちづくり研究会」が井の口の建物調査を専門的に行っていきます。地区の全ての建物形態を拾い出し、この地域の現状景観をまとめる作業です。来年まで作業は続く予定ですが、専門的な調査報告や風景継承のための指針を提案できればと考えています。

まちの風景検討部会
リーダー 小林 孝夫
12月5日(日)、風もないとでも穏やかな天気に恵まれて、井の口の町並み探索が行われました。日頃住み慣れたまちを見つめ直し、魅力的なスポットなど、新たな発見を試みる催しに32名の会員が参加しました。約2時間の探索でしたが、結果は今後の井の口まちづくり企画に反映していきたいと思います。

当日は下茶屋町の浅野鉄工所本宅と河村邸も見学させていただきました。外観だけでなく、歴史を醸し出す間取り、材質そして美しい庭に会員一同堪能するとともに、先人が築いた井の口の誇りも再確認することができました。ご好意を賜りました方々にお礼申し上げます。

頭が下がりますが、地区の方々が積極的に協力していただけ、町並みと風情を活かしたとても素適なイベントになりました。地域の輪が拡がるきっかけとなればと思います。

昨年発足した「まちの風景検討部会」も今年はいよいよ本格的な活動を始めています。この部会では井の口らしい景観を捉え、次世代へ美しい風景を継承していく提案を検討しています。「我がまち探索」もその一環の事業になります。

それと並行して、事務局の主なメンバーが所属する「金華まちづくり研究会」が井の口の建物調査を専門的に行っていきます。地区の全ての建物形態を拾い出し、この地域の現状景観をまとめる作業です。来年まで作業は続く予定ですが、専門的な調査報告や風景継承のための指針を提案できればと考えています。

まちを探索する参加者

まちの風景検討部会
リーダー 小林 孝夫
12月5日(日)、風もないとでも穏やかな天気に恵まれて、井の口の町並み探索が行われました。日頃住み慣れたまちを見つめ直し、魅力的なスポットなど、新たな発見を試みる催しに32名の会員が参加しました。約2時間の探索でしたが、結果は今後の井の口まちづくり企画に反映していきたいと思います。

当日は下茶屋町の浅野鉄工所本宅と河村邸も見学させていただきました。外観だけでなく、歴史を醸し出す間取り、材質そして美しい庭に会員一同堪能するとともに、先人が築いた井の口の誇りも再確認することができました。ご好意を賜りました方々にお礼申し上げます。

頭が下がりますが、地区の方々が積極的に協力していただけ、町並みと風情を活かしたとても素適なイベントになりました。地域の輪が拡がるきっかけとなればと思います。

昨年発足した「まちの風景検討部会」も今年はいよいよ本格的な活動を始めています。この部会では井の口らしい景観を捉え、次世代へ美しい風景を継承していく提案を検討しています。「我がまち探索」もその一環の事業になります。

それと並行して、事務局の主なメンバーが所属する「金華まちづくり研究会」が井の口の建物調査を専門的に行っていきます。地区の全ての建物形態を拾い出し、この地域の現状景観をまとめる作業です。来年まで作業は続く予定ですが、専門的な調査報告や風景継承のための指針を提案できればと考えています。

まちを探索する参加者

井の口まちづくり会 各部会員を募集

井の口まちづくり会では部会が中心となっていろいろな活動を行っています。

下記の各部会メンバーと一緒に、まちづくり活動をしていただける会員をいつでも受け付けています。堀会長、河崎、部会リーダーに申し出をお願いします。

●イベント部会

杉山 秀子 (○) 河崎 良史 (○)
高橋紀久子 高橋かずえ
杉山鉢一郎 後藤 勝利
篠田 寿夫 神山 明

●まちの歴史探索部会

河崎 良史(代行) 中村 末雄 (○)
森 勝彦 (○) 北川 英生
杉山 周三 鷲見 善治
鷲見 玲子 塚原 紀好
森 喜彦

●まちの風景検討部会

小林 孝夫 (○) 堀 智仙 (○)
名和 利夫 松原 和生
木野村英機 野々村聖子
澤田 勝美

●まちなかアート部会

伊藤いつお (○) 杉山 篤彦 (○)
鈴木 芙美子 武井 英男
安藤 幸延 伊藤 克司
矢島 康治 山吉 りか
小林 教子 馬場わかよ

●広報通信作成部会

事務局 (○) 会長 副会長 部会リーダー
(○はリーダー ○は副リーダー)

井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日
発行・平成23年6月10日・第8号通信
責任者・堀 達夫(井の口まちづくり会会長)
〒500-8003 岐阜市大宮町1-17 ☎058-263-9540
事務局長・河崎良史 E-mail・malo@he.mirai.ne.jp
通信編集・作成 馬場わかよ(事務局)

4月29日、平成23年度総会を開催しました



岐阜市副市長武政 功氏が来賓の挨拶

挨拶をする堀会長

●会費納入のお礼とお願い

総会の受付にて、平成23年度の会費を納入していただき、ありがとうございました。お越しただけなかった会員の皆さまには、担当の者がお伺いしております。また、お手数をかけますが会長宅までお持ちいただけた幸いです。

私は、当まちづくり会のさらなる発展のため、次の三点を心掛けていきたいと存じています。

一つめは、できるだけ多くの会員に5部会の何れかに入つてもらい、会の運営に参加していただきたい。二つめは、この会はむろん会員によつて構成してはいますが、井の口地区全員の支えがあつて成り立つているという思いを忘れないでいること。三つめは、会の門戸を広く開放し、地区の内外を問わず会の趣旨に賛同してくださる人には加入していただくことです。

今後とも、歴史と文化のまちである井の口地区の発展のため、役員ともども頑張って参りますので、皆さま方の一層のお力添えをお願いいたします。

一つめは、できるだけ多くの会員に5部会の何れかに入つてもらい、会の運営に参加していただきたい。二つめは、この会はむろん会員によつて構成してはいますが、井の口地区全員の支えがあつて成り立つているという思いを忘れないでいること。三つめは、会の門戸を広く開放し、地区の内外を問わず会の趣旨に賛同してくださる人には加入していただくことです。

今後とも、歴史と文化のまちである井の口地区の発展のため、役員ともども頑張って参りますので、皆さま方の一層のお力添えをお願いいたします。

井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日
発行・平成23年9月15日・第9号通信
責任者・堀 達夫(井の口まちづくり会会长)
〒500-8003 岐阜市大宮町1-17 ☎058-263-9540
事務局長・河崎良史 E-mail・malo@he.mirai.ne.jp
通信編集・作成 馬場わかよ(事務局)

ぎふ大仏フェスティバル

子どもたちが楽しくゲームに参加しました

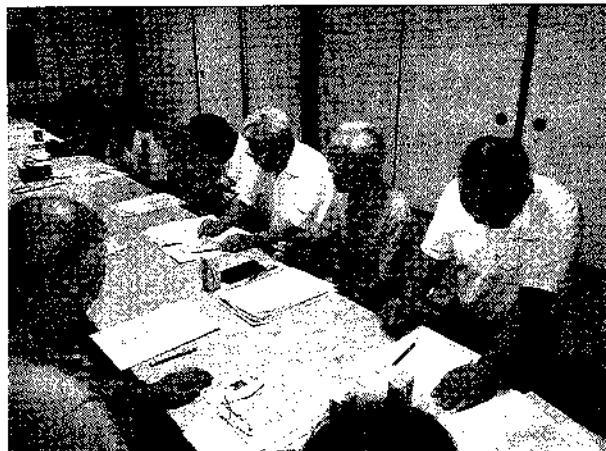
ぎふ大仏フェスティバルが猛暑の7月18日・19日の両日開かれました。大仏殿前広場ではバザー、宝探し、あんどん祭りをはじめ、カラオケ、盆踊り大会が例年どおり行われました。私たちイベント部会は、まちづくり会発足の4年前から子どもたちを対象にしてビニール製のボールをより多く参加で盛り上げましょう。(神山 明)

入れたチームが勝ちというものの。器用に入れる子らに拍手が沸きました。

2日目は「りんごの皮むき」ゲーム。

画面紙で作つたりんご型の紙を手でちぎつて細長く裂いてその長さを競う個戦です。慣れない手付きで取り組んだものの思うように行かず、応援のみんなの笑いを誘う子もいました。

勝ち負けに一喜一憂する子どもたちは、ペットボトルをガムテープでとめたホールに、傘の持ち手をスティックにしたゲームで協賛しています。



大仏殿庫裏にお集りいただいた自治会長の皆さんと役員



インペットボールゲームを頑張る子どもたち

お知らせとご協力のお願い!

「井の口マップ」を今年度末に改訂します

井の口マップは、まちづくり会設立の平成20年度に「わがまちマップ作成部会」のメンバーが中心となって、役員の皆さんと事務局で作成しました。当時3万部を印刷しましたが残数がわずかになり、今年度中に改訂版を作成することが決まりました。

皆さんに親しまれ、このまちを訪れる観光客にも活用していただきましたマップですが、3年も経ちますとまちの様子が変わってきます。新たなお店や施設の情報も更新しなければなりません。またまちづくり会の活動も活発になり、ご紹介したいイベントなども増えました。

マップの作成はこれからです。マップに載せてほしい情報などがありましたら、堀、河崎、小林(正法寺)、馬場までお知らせください。

井の口マップを置いていただけるお店や施設を募集します。また、印刷費用にかかる協力金を同時にお願ひいたします。金額に応じてマップを増量してお渡しさせていただきます。

自治会長の皆さんとの懇談会開催

より緊密な連携を築くことを確認!

井の口まちづくり会の活動に対して、自治会の皆さま方のより一層のご理解、ご協力を願うるため、8月27日(土)午後7時より正法寺大仏殿において懇談会を開催いたしました。

設立から4年目を迎え、会員数も当初予定の100人から185人と大きく伸びた現況の報告をはじめ、お月見アート、先進地視察研修等の各事業計画の解説、更には新たに予定をしているアンケート調査への協力をお願いしました。出席の皆さんからは「活動内容がよく分かった」「できるだけ協力していこう」となど有難い言葉を頂戴しました。

なお、次年度からは自治会長の皆さんとの懇談会をより早い時期に開催していく予定であります。(堀)

井の口地区の自治会組織(19自治会)

2地区	大宮町1丁目	大宮町2丁目	木挽町
3地区	山口町	益屋町	
4地区	上茶屋町	下茶屋町	今町1丁目
5地区	今町2丁目	松下町	松山町 夕陽ヶ丘 夕陽ヶ丘県
		営住宅	松ヶ枝町北組 松ヶ枝町南組
		今町3丁目	今町4丁目 大仏町 梶川町

梶川堀の梶川橋跡

日本古来から伝わる七夕飾りを井の口地区内の民家の軒下に飾っています。ただく、まちなかアート部会の新企画「まちなか七夕アート」を7月3日から1週間開催しました。

3日は早朝から竹竿を切り出しに行き、午後から希望者に七夕飾りセ

ットを付けて配付。約50軒のお宅がそれぞれ工夫を凝らした飾り付けで町並みを演出していただきました。

河村邸の2本の竿には部会メンバーが飾り付けをし、その様子は5日朝の中日新聞に掲載されました。

その河村邸にて6日(水)午後6時30分から「まちなか七夕コンサート」を開催。来場の皆さんには開演前の時間に、短冊に願いごとを書いていた

だき竿に取り付けました。プロのフルート奏者AKI(遠山亞希)によるクラシックから日本の

童謡、歌謡曲、アニメソングまでの1

時間余りのコンサートは大盛況で、

会員と地元住民の方々や新聞を見て

来た方など約80人が楽しみました。

今回プロの演奏者にお願いしま

したが、次回からは若手アーティス

トの発表の場になるような企画を考

えていきたいと思っています。

また、コンサート会場として提供

いただいた河村邸は、ご夫妻の手で

清掃がされ、丹精込めて畠で育てら

れた花々で屋敷中が飾られていて、

訪れた人たちの目も心も楽しませて

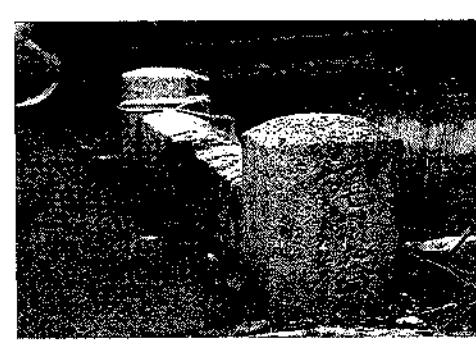
いただきました。お心づかいに厚く

お礼申し上げます。

(伊藤)



七夕飾りを施した河村邸の前でコンサートの受付



常在寺より西へ数十歩の歩道の端に、ひっそりとあったかつての梶川橋の欄干。当たり前すぎて、いつしか気にとめなくなっていたのは私たちのほうかも知れません。

常在寺の西を縦に流れる梶川堀。その大手門通り沿いに小さな石製の橋跡がありました。道三、信長が造った城下町では堀を挟んで東が武家屋敷、西は町家に分けられており、歴史的視点からも梶川堀は「井の口のまちの成り立ちを示す」まちのお宝です。そこに残る石製の欄干は一つの記念碑でありました。その橋跡が道路改修工事によって手違いから壊されました。

無くなつて初めて、大切なものを粗末にしていたのではないかと気付くことがあります。梶川橋跡に限らず、昨日までそこにあったものが消えないよう、まちのお宝を守るために皆が心に刻みましょう。(馬場)

まちなかお宝アート

井の口まちづくり会・部会主催イベントのご案内

井の口まちづくり会 部会メンバーを募集

井の口まちづくり会では5つの部会が活動の中心となって、特色のあるいろいろな事業やイベントを行っています。

右紙面ではまちの風景検討部会、まちなかアート部会による活動をお知らせしていますが、そのほかイベント部会では、全国日本学生落語選手権「策伝大賞」に出演した学生たちによる落語会「井の口寄席」を開催。まちの歴史探索部会では、このまちの歴史勉強会や俳句会を開催しています。

私たちと一緒にまちづくり活動をしていただける会員の皆さんをいつでも募集しています。下記の申込書に記入して堀会長、河崎、部会リーダーまでお届けください。

●イベント部会

- 杉山 秀子 (◎) 河崎 良史 (○)
- ・ぎふ大仏フェスティバルへの協賛
- ・御鮓街道ウォークの支援
- ・井の口寄席の開催

●まちの歴史探索部会

- 中村 末雄 (◎) 森 勝彦 (○)
- ・岐阜公園の発掘と将来像の勉強会の実施
- ・御鮓街道ウォークの支援
- ・俳句こと始めの開催

●まちの風景検討部会

- 小林 孝夫 (◎) 堀 智仙 (○)
- ・先進地視察研修の実施
- ・地区住民の景観意識調査の実施
- ・地区内建物の調査分析の実施

●まちなかアート部会

- 伊藤いつお (◎) 杉山 範彦 (○)
- ・まちなか七夕アートの開催
- ・まちなかお月見アートの開催
- ・大仏様への年賀状展の開催

●広報通信作成部会

- 事務局 (◎) 会長 副会長 部会長
- ・井の口まちづくり会通信の発行
- ・井の口マップ改訂版の作成
- ・各種イベントの広報・PR
- (◎はリーダー ○は副リーダー)

まちなかアート部会 まちなかお月見アート

10月9日(日)・10日(祝)・11日(火)・12日(水)
スタンプラリーを開催(10日祝18時~20時)

今年は晩秋の名月、十三夜を愛でる「まちなかお月見アート」を開催します。井の口のまちにお月見の風情を演出しましょう。

ススキを配付します

10月9日午後1時30分より伊藤(ふくろう)宅、戦国の大通り、光芳堂前にてススキの無料配付を行います(予約申し込み可)。玄関先に飾っていただける方は受け取りに来てください。



昨年のススキ飾りの様子

大仏殿にパワーアップしたアートが出現!

9日からの4日間、昨年と同じ造形作家・後藤 譲氏によるアート作品が大仏殿東側に展示されます。タイトルは「大月殿」。見慣れた大仏殿の風景が作品によって満月と出会い、人と繋がる体感をしましょう。

スタンプラリー参加者にぜんざいのふるまい

10日の夜は井の口のまちをお月見でめぐるスタンプラリーを行います。十三夜のこの時期、お月様と岐阜城が重なる姿は美しく、スタンプ用紙に3つのスタンプを集めて歩きます。ゴールは伊藤(ふくろう)家。今年は皆さんに手づくりぜんざいを味わっていただきます。

大仏様への年賀状を募集します

昨年から始めた「大仏様への年賀状」は、皆さんの年賀状を慈悲溢れる大仏様にも差し上げて、新しい年の幸せをお願いしようという企画です。手づくり、手書き、あるいは印刷やパソコン使用であってもオリジナルであることが条件です。大仏様がいただいた年賀状は「年賀状展」を開いて皆さんに見ていただきます。

●〒500-8018 岐阜市大仏町 ぎふ大仏様宛へ。
または大仏殿正面に設置した投函箱へ1月10日まで。

まちの風景検討部会 日帰バス 観察研修 五箇山・白川郷

11月6日(日) 参加費2,000円
井の口まちづくり会員限定企画・定員46名

3回目となります日帰り観察研修は、いにしえの風景と文化を継承している世界遺産「五箇山」と「白川郷」に決定しました。好評を得た昨年の「長浜まちづくり」の経過学習に引き続く企画であり、多くの皆さまのご参加を期待しております。

現地では、ボランティアスタッフの協力を得て、世界遺産登録までの経緯、並びに現在の活動状況を学習する機会にしたいと思います。時代に取り残されたエリアというより、先人が育んだ文化の継承への熱い想いに、私たちは感激と癒しを感じるに違いありません。

井の口のまちづくりと形態は違いますが、住んでみえる方々の「まち」への想い、そしてその活動内容には共通するものがあると思います。また、道中では紅葉も楽しめることでしょう。

参加を希望される方は左下の申込書を提出ください。

- | | |
|---------|--------------------|
| ●申し込み先 | 大宮町1丁目 堀達夫会長宅 |
| ●参加費用 | 2,000円(集合場所受付にて納金) |
| ●集合日時 | 11月6日(日)午前7時30分 |
| ●集合場所 | 名和昆虫博物館東側 |
| ●帰宅予定時間 | 午後5時30分頃 |

景観住民アンケートを実施します

自治会のご協力を得て「井の口エリア住民意識調査」を実施します。まちづくり会では魅力ある井の口の歴史や文化を学習し、次世代を担う子どもたちに継承するため様々な活動を行っています。また、今後とも楽しくここに豊かに住まい続けるための活動も継続しています。

今回のアンケートで、お住まいの皆さまのお考えをいただき、こうした本会の活動方針を確認する重要な資料にしてまいりたいと思います。趣旨をご理解いただき、住民皆さまのご協力をお願いいたします。

- アンケート実施期間 9月20日~10月15日
- 回収方法は、お配りした封筒に入れて各町内自治会長宅へ10月15日までに投函してください。

部会メンバー申込書

部会名	
氏名	
住所	〒 - TEL - -
Eメール	

*あればメールアドレスかFAX番号をお書きください。

9月から発掘調査開始

(萬松館～歴史博物館西道路)

道路拡幅がすすめられている高富街道沿いでは、すでに岐阜城下町遺跡発掘調査が松ヶ枝町で終了しています。残る大宮町でも9月から順次遺跡調査を拡幅工事がされる前に、岐阜市社会教育課によって開始されます。

道三、信長が造った城下町の遺構や出土品を発掘調査することで、まちの歴史をより深く知ることができ、この地区の成り立ちが分かります。

第3回御鮓街道ウォーク 9月23日(祝)

参加費無料　途中参加・離脱自由　小雨決行

今年も岐阜公園総合案内所をスタート地点として、笠松までの全長9キロで開催されます。お子さんを含めた皆さんの参加をお待ちしています。

●行程と時間(抜粋)

- | | |
|-------|---------------------------|
| 9:00 | 岐阜公園総合案内所(木挽太鼓の演奏、出発イベント) |
| 9:45 | 出発 |
| 10:00 | 御鮓所跡(資料配付) |
| 10:30 | 白木町公園(茶菓接待) |
| 11:30 | 溝旗公園(宿次イベント、昼食) |
| 15:30 | 笠松問屋場・高嶋家(宿次の解説) |
| 16:00 | 笠松湊(終点、鮎雜炊のふるまい) |

井の口まちづくり会では、御鮓所跡の資料をお渡ししています。

バス観察研修参加申込書

氏名	
住所	〒 - TEL - -
同行者名 家族のみ	
○で囲む	会員 新規会員*

*新規会員は参加費と会費1口500円をいただきます。

岐阜市からは景観形成市民団体として認定され、助成金もいただいています。それに恥じぬよう紳士的に応すれば、岐阜市も私たちとの協議にきつと前向きに考えてもらえると信じている。

岐阜市がこのまちを知り、このまちを愛する心を共有できる機会に充分になり得るであろう。

災い転じて何とかではないが、私たちがこのまちを表現するかを皆で智恵を出し協議することから始めてはどうだろう。「百曲り通り」の道路改修では、横断する桜川堀を石畳で表現した。それは市の職員の提案と聞いている。

岐阜市から市に元に戻すなんて子供じみたことは当然の行為とも言える。

今となっては、壊れてしまつたものがどうだらう。新たにどのような方法で「桜川堀」の位置付けの協議や提案を働きかけなければ、障害物となる工作物を撤去するにはどうだらう。

岐阜市の職員であった。それを知てくれた方も我々にも反省点はある。道路整備の担当課の方々と2回も協議する機会を設けていたにもかかわらず、「七曲り通り」、「桜川橋」などの歴史的位置付けの協議や提案を働きかけなかつた。冷静に考えれば公共工事の会を設けていたにもかかわらず、「七曲り通り」、「桜川橋」などの歴史的位

事務局だより

事務局長 河崎良史

井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日
発行・平成24年1月10日・第10号通信
責任者・堀 達夫(井の口まちづくり会会长)
〒500-8003 岐阜市大宮町1-17 ☎058-263-9540
事務局長・河崎良史 E-mail・malo@he.mirai.ne.jp
通信編集・作成 馬場わかよ(事務局)

参加者は52名 世界遺産の村を日帰り視察研修



参加者そろって記念撮影

■視察研修アンケートから

- ・回答者 46名
 - ・開催時期 良い44名 別の季節0名 無回答2名
 - ・集合時間 適当40名 早い5名 遅い0名
 - ・解散時間 適当40名 早い3名 遅い0名
 - ・移動時間 適当31名 短い5名 長い5名
 - ・研修地 適当24名 期待以上20名 期待はずれ0名
 - ・地元交流 良かった39名 工夫が必要2名 不十分0名
 - ・食事内容 適当33名 旨い9名 口に合わなかった0名
- その他、他の地域の事例を見ることにより井の口地区を見直すきっかけになった(28名)、まちづくり活動に興味を持つことができた(14名)などが記され、37名の方が「次回もぜひ参加したい」と答えられました。

●視察研修に参加して まちの歴史探索部会 塚原 紀好
11月6日小雨降る美濃国井の口を出て、一 路飛驒国へ出発。東海北陸道を北へと向かい バスの窓より霧霞む山々の紅葉を楽しみながら(?)2時間50分後富山の五箇山へ到着

世界遺産の相倉合掌造りの集落では2班に 分かれて素敵なガイドさんと一緒に集落の中を案内され、左手に傘、右手にカメラを持って地主神社、西方道場などを探索。さすが世界遺産 古くて歴史が埋もれてる。菅沼集落では昼食をいただきながらまちづくりのお話を聞く。ここでもやはり歴史が古 い話が聞けてよかったです。村の人たちが世界遺産に向けて協力しているのが分かる。合掌造りの話、硝酸、大麻、蕎麦…いっぱい聞く。

そして白川郷へ。ここも村人や村長の頑張りと世界遺産への努力が実り、観光客が年間150万人来ると言葉を驚いた。毎年素晴らしい研修先を企画してくれてありがとうございました。

いにしえの風景と文化を継承している世界遺産で有名な「五箇山」と「白川郷」に11月6日(日)、小雨が降りしきるなか会員とその家族、総勢52名の参加を得て出かけきました。最初の到着地、五箇山相倉では2班に分かれ地元ボランティアガイドさんによる説明を受けながら集落を見学し、菅沼集落では昼食場所で地元ガイドさんの絶妙なお話を聞いた後、お話しが聞けました。その後自由時間を堪能して、皆さんお土産を手に帰途につきました。

最後に訪れた白川郷では、バスの駐車場で前村長であり堀会長の知人で森みみち子さんの同級生でもある谷口氏から世界遺産登録に至ったお話を聞きました。その後自由時間を堪能して、皆さんお土産を手に帰途につきました。

●満足感を味わった研修の旅 森 みみち子

雨に煙る運めの紅葉を車窓に見ながら、五箇山相倉集落に到着。いま尚人々の生活の場となつている日本で唯一の世界遺産だということ。そしてここは加賀藩、富山県です。年貢は米ではなく秘密に造った糠漬だったと聞きびっくりしました。

菅沼集落の合掌の里ではなくつかしい母親の味がする郷土料理、ご飯にきな粉をかけていただきま した。世界遺産と高速道路で観光客の人数は増えても地元に落ちるお金は少なく、あぐらをかいている訳にはいかず、夜にかけてのイベントを考えるなど努力をしているというお話を聞きました。

最後の白川郷集落では、前村長谷口様から、黄

色の手紙で、お月見アートを企画して貰いました。

また、大仏殿の道路に面した軒下では後藤譲氏作のアート作品「大月殿」が展示され、大き

くの白い半月の布が風にゆれ、ライトアップされて幻想的な雰囲気を創り出しました。

10日の体育の日の夜にはスタンプラリーを開催し、ススキ飾りを眺めながら月明かりのまちを散策。ゴールの伊藤家で会員手づくりのぜんざいのふるまいに皆で舌鼓を打ち、お月見の夜を賑やかに過ごしました。

10日の体育の日の夜にはスタンプラリーを開催し、ススキ飾りを眺めながら月明かりのまちを散策。ゴールの伊藤家で会員手づくりのぜんざいのふるまいに皆で舌鼓を打ち、お月見の夜を賑やかに過ごしました。

秋葉様が祭ってあり日を引きます。現レシール今町が建つその場所にはかつて四軒長屋があつて、その長屋の屋根の上に祭つてあった秋葉様です。建て直しが決まつた10年ほど前に預かり、施工先であつた雛屋建設に交渉し、お祭りする場所を造つていただけたと、いきさつに詳しいお隣の木村さんから伺いました。

スタンプラリーでぜんざいに舌鼓！

今町2丁目・今町3丁目

秋葉様(屋根上の神様)

今町2丁目を通ると立派なお社の秋葉様が祭ってあります。現レシール今町が建つその場所にはかつて四軒長屋があつて、その長屋の屋根の上に祭つてあった秋葉様です。建て直しが決まつた10年ほど前に預かり、施工先であつた雛屋建設に交渉し、お祭りする場所を造つていただけたと、いきさつに詳しいお隣の木村さんから伺いました。

ドウダンつつじ観賞会開催

かねてから会員および皆さまからご要望のあった、河村邸のドウダンつつじの観賞会を11月20日(日)に開催しました。



ドウダンつつじが紅葉した庭

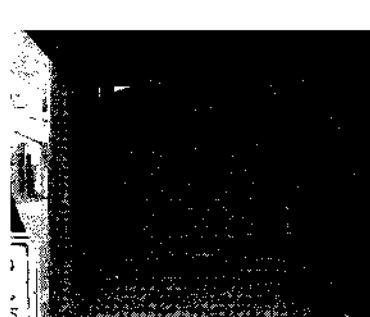
紅葉のお庭を眺めてお抹茶を！

かねてから会員および皆さまからご要望のあった、河村邸のドウダンつつじの観賞会を11月20日(日)に開催しました。

この度も河村様の心あるご配慮に感謝いたします。(伊藤)

下茶屋町にある河村邸は築百年以上の町家で、向かい合う坪庭と中庭にドウダンつつじが10本ほどあり、秋は真っ赤な色合いが見事です。当日は暖かい日が続き紅葉には少し早かつたにもかかわらず、午前午後合わせて約60人の来場がありました。

両方のお庭が見渡せる和室で希望者に300円でお抹茶を味わせていただき、暖かい秋のひとときを堪能していただきました。

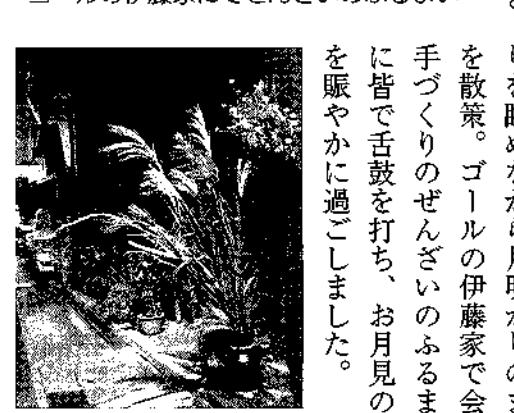


金華地区では、どの町内にもお祭りしてある秋葉様。鎮火の神が町を守り、近隣住人の安らぎと拠り所にもなっています。

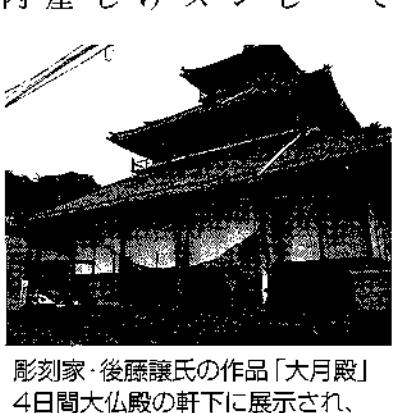
10月9日(日)~12日(水) まちなかお月見アートを開催



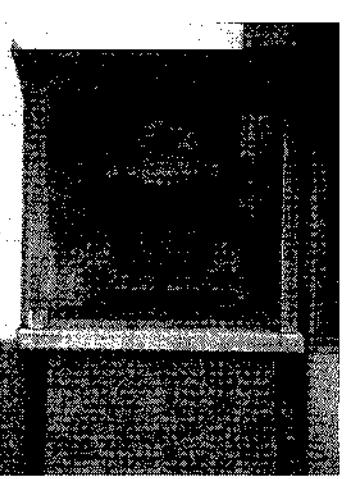
ゴールの伊藤家にてぜんざいのふるまい



お月見の町並み



彫刻家・後藤譲氏の作品「大月殿」4日間大仏殿の軒下に展示され、夜はライトアップされた。



屋根の上に祭られていたこの秋葉様は「多分濃尾震災以降の物だろう」と木村さんは言われます。龍などの彫刻が施された凝った造りのお社です。

「屋根の上にあった証拠に、台座を見てもらおうと斜になっているやう。その下に木で台を造つてはめ込んであるやよ」と説明していただきました。

